

生徒の現状・課題

- 学習に対してまじめに取り組むものの積極性や主体性に欠ける面がみられ、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査結果でも、全国及び都の平均より 10%以上下回っている。
- 不登校生徒も増加傾向にあり、自己肯定感や自己有用感を高めていくことも課題である。

**学び続ける力を育むための重点目標**

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」を各教科・総合的な学習の時間で設定していくことと、「自尊感情を高めるための手立て」を考えることで、生徒の学びに向かう意欲を高める。



※肯定的な回答の割合

生徒調査	昨年度	目標値 7月	結果 1月
①自分から進んで計画をたてて、学習している。	78%	80%	
②授業のはじめには、これまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題やめあてを確認したりしている。	84%	90%	

教員調査	昨年度	目標値 (7月)	結果 (1月)
①個別最適な学びを実現するため、事前に個に応じた課題や支援方法を計画している。	86%	90%	
②授業では、学習課題や学習過程等、児童生徒が学び方を選択する場面を設定している。	68%	80%	

具体的な手立て①

- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせた単元計画を設定する。
- ・ 単元の最初から個別学習をするのではなく、基礎的な知識を獲得してから、選択学習に入る。

具体的な手立て②

- ・ 身近な話題から導入を工夫し、自分自身の課題をもち、単元に入る。
- ・ 自分で選択したことが単元の目標に到達しているか、振り返りを行う。

具体的な手立て③

- ・ 発表活動で周りからのリアクションを取らせるように指導する。
- ・ 発表に対して感想や質問を行う場面を設定し、答えられなかったものに対して、再度調べ学習を行う。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- 教員を4つのグループに分け、「個別最適な学び」「協働的な学び」について学習方法や学習形態を研究する。
- グループごとにテーマをもち、指導案を作成。その指導案をもって、相互に授業観察を行う。

総括（7月）

学び続ける力を育むためにも、生徒が主体的に学習に臨む環境を設定することが、教員の役割である。そのため、生徒が選択する場面を各教科で設定すること、生徒を引き付ける問いを設定することを目指す。

総括（1月）